

学校関係者評価委員会 報告書
(平成 25 年度)

平成 27 年 3 月 24 日

学校法人国際総合学園

国際こども・福祉カレッジ

平成 25 年度 国際こども・福祉カレッジ 学校関係者評価委員会報告

1. 開催期日

平成 27 年 3 月 24 日（火）16:30～18:30

2. 開催場所

ホテル イタリア軒 別館 蛸

3. 出席者（8名）

（外部委員）山崎一夫、稲田泰紀、宮崎則男

（本校職員）学校長、副校長、教務部長 2 名、事務局長

4. 委員会次第

- ・開会の挨拶（学校長）
- ・学校関係者評価委員の紹介
- ・学校自己評価の説明（平成 25 年度の取り組みについて）
- ・学校自己評価に関する意見交換及び質疑応答
- ・閉会

5. 学校自己評価に対する意見、質疑応答

① 教育理念・目標

- ・学校自己評価を見る限り数値目標の記載が少ない。
→別途、国家試験合格率や就職、退学等の数値目標ある旨を説明。
- ・育成人材像について、福祉業界のニーズに合わせる工夫は？
→教育課程編成委員会のほか、実習依頼時や実習巡回時、職能団体研修時などに情報収集や意見交換を行っているが、さらにその機会を増やしていきたい。

② 学校運営

- ・教職員の出勤状況の管理方法について。
→原則 9 時～17 時半、休憩 60 分。出勤簿への押印により管理しているが、各自の PC 使用状況が月 1 回副校長に報告あり、そこでの出退勤状況把握も行っている。
- ・超過勤務の管理について
→上長への事前申告を基本に行っている。

- ・17時半に帰宅できているか。
→全教職員が17時半に帰宅することは現状難しい。役割分担や事務の効率化などの努力はしているが、授業準備のほか、学生への対応、行事、事務処理等多岐にわたる。今後も学校全体の業務分担等を見直しながら改善を図りたい。なお、年1回の人材活性報告等で教職員が法人本部に意見等出せる機会が設けてある。

③ 教育活動

- ・カリキュラム、成績評価等の基準、資格取得に関する指導体制の項目評価が3となっているが、いずれも明確で体系的に組み立てられているので次回からは4で良いのではないか。
- ・教員の資質向上に関わる研修について。
→各養成施設協会などの職能団体主催の教員研修や、グループ内の新任教員研修やセクハラ研修などに、毎年教職員を参加させている。

④ 学修成果

- ・国家試験合格率はどのくらいか？
→社会福祉士、精神保健福祉士とも全国、県内ともトップクラスを維持。
- ・退学者の状況については。
→意欲低下や進路変更もあるが、内面的課題を抱えて退学に至るケースが増えてきている。実習がその契機となることも少なくない。学校としては個別面談や三者面談、専門家への相談等の対応を行っている。
- ・退学の問題は福祉の学校特有のものか？
→他業界の学校でも退学者は増えてきているので、業界特有のものではないと思われる。

⑤ 学生支援

- ・保護者との連携について、保護者会実施のほか、他学科では学級新聞の発行を行っている。
→学級新聞については、中学生とは違い大人である。保護者との連携は大事だが、連絡事項に関しては学生本人の責任という部分もあるのでは。

⑥ 教育環境

- ・避難訓練について。
→現在、1号館・2号館が地域の津波避難所として機能しているが、今後自治会などとの合同避難訓練も実施されると良い。

⑦ 学生の受入れ募集（特になし）

⑧ 財務（特になし）

⑨ 法令等の順守

- ・自己評価及び学校関係者評価の時期について、もう少し早めの実施は可能か？
→7月～8月の実施を目指したい。

⑩ 社会貢献・地域貢献

- ・津波避難所について、どのような形式を取っているのか？
→該当町内会と書面を取り交わし、自治会長には校舎の鍵を預けている。

その他、福祉人材の減少、特に介護現場での人材不足、介護を目指す学生数の減少について意見交換がなされた。